



2022年5月13日

各 位

会 社 名 株式会社キムラタン
 代表者名 代表取締役 清川 浩志
 (コード番号 8107 東証スタンダード)
 問合せ先 常務取締役 木村 裕輔
 (電話 078-806-8234)

2022年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異及び
 特別損失の計上に関するお知らせ

当社が2022年2月14日に公表いたしました2022年3月期(2021年4月1日~2022年3月31日)の通期連結業績予想値と実績値との差異及び特別損失の計上について、以下のとおりお知らせいたします。

1. 2022年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異(2021年4月1日~2022年3月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|---------------------|--------------|-------------|-------------|-------------------------|----------------|
| 前回発表予想(A) | 百万円 4,100 | 百万円 △480 | 百万円 △500 | 百万円 △520 | 円 銭 △3.53 |
| 実績値(B) | 4,237 | △564 | △609 | △892 | △6.07 |
| 増減額(B-A) | 137 | △84 | △109 | △372 | — |
| 増減率(%) | 3.4 | — | — | — | — |
| (ご参考)前期実績(2021年3月期) | 4,708 | △437 | △434 | △416 | △3.15 |

2. 通期連結業績予想の修正の理由

当第4四半期におきましては、消費マインドにも持ち直しの動きが見られ、春物販売の活性化とともに既存店売上も回復基調で推移しました。また、子会社中西においては、主力得意先との取り組み強化が深耕し、春夏物の販売が堅調に推移しました。以上の結果、売上高は前回予想を上回る実績となりました。

他方、損益面では、秋冬物在庫の消化に向けて値引き率が増加したことと、急激な円安の進行により粗利益率が目標には届かず、また想定外の為替差損が発生したことにより、営業損失、経常損失は前回予想を下回る結果となりました。

加えて、2022年2月14日に公表いたしました「事業ポートフォリオの転換に関するお知らせ」に記載のとおり、抜本的な経営再建と財務基盤の強化を果たしていくために、当社アパレル事業の大幅縮小と不動産事業の拡大を柱とする事業ポートフォリオの転換を決断いたしました。アパレル事業の縮小に伴って発生した、あるいは将来発生が見込まれる従業員に対する退職金、在庫評価損、物流センター等の撤退コスト等の損失について2億7百万円の事業構造改革費用及び引当金を計上し、同様に事業縮小に伴い回収が見込めなくなった資産について63百万円の減損損失を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純損失は前回予想に対し3億72百万円の差異が生じることとなりました。

3. 特別損失の計上

上記「2. 差異の理由」に記載のとおり、アパレル事業の縮小に伴って、2億7百万円の事業構造改革費用及び引当金、並びに63百万円の減損損失を特別損失に計上することといたしました。

以 上